

化学製品製造における乾燥施設の類型分けについて

1. 取扱製品での類型分けの適否について

論点：取扱製品ごとに類型分けを行うべきか、否か。

類型分けの方法(案)	メリット	デメリット
案1： 取扱製品ごとに類型分けを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り扱う製品ごとの状況を反映させることが必要な場合には有効 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「化学製品製造における乾燥」という同一の行為を行う同形態の施設を区別して取り扱うこととなり合理的でない ・ 取扱製品間の公平性を判断することは困難
案2： 取扱製品ごとに類型分けを行わない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「化学製品製造における乾燥」という同一の行為に対し同一の取扱いができる ・ 現行の大気汚染防止法においても同様の取扱いがなされている(例：化学製品の製造の用に供する塩素反応施設等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り扱う製品ごとの状況を反映させることが必要な場合には困難

2. 施設の形態別の類型分けの適否について

論点：施設の形態別の類型分けを行うべきか否か。

また、類型分けをする場合、どのような形態別に類型分けを行うことが適切か。

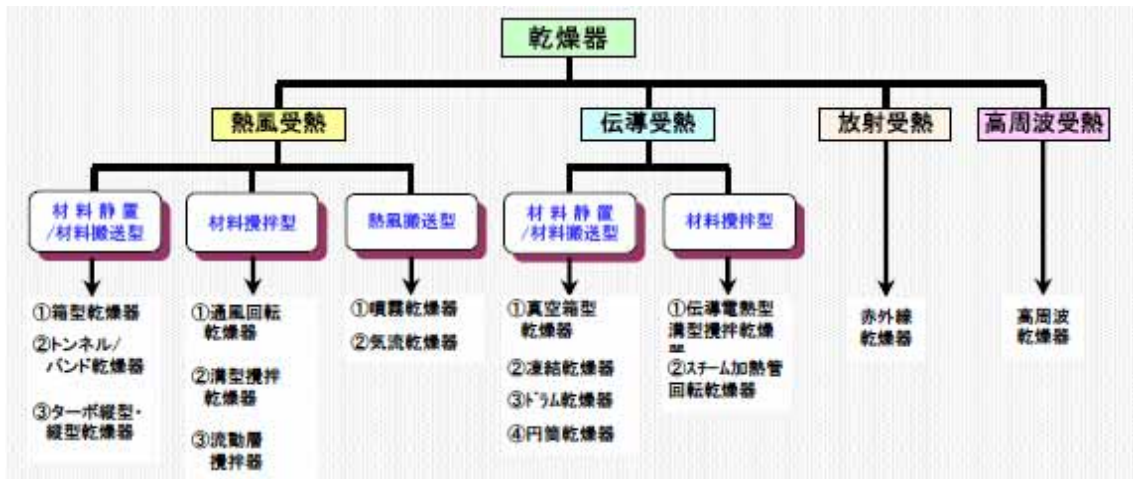
類型分けの方法(案)	メリット	デメリット
案1： 形態別に類型分けを行う	<ul style="list-style-type: none"> 各形態の状況を反映させることが必要な場合には有効 	<ul style="list-style-type: none"> 「乾燥」という同一の行為を行う施設を区別して取り扱うこととなる 形態間の公平性を判断することは困難
案2： 形態別に類型分けを行わない	<ul style="list-style-type: none"> 「乾燥」という同一の行為に対し同一の取扱いができる 	<ul style="list-style-type: none"> 各形態の状況を反映させることが必要な場合には困難

形態別に類型分けする場合の分け方について

乾燥施設の形態別の類型分けの例	取扱製品別の事例	特徴(他方式と比較しての相対的特徴)
熱風受熱方式	塩ビポリマー… 合成ゴム… 一般製品…	<ul style="list-style-type: none"> 比較的大規模な乾燥に活用される技術 排ガス量が多く、VOC濃度が低い 冷却器等によるVOCの回収効率が悪い 大気へのVOC排出量大きい
伝導受熱方式	ポリエチレン…	<ul style="list-style-type: none"> 比較的大規模な乾燥に活用される技術 排ガス流量は少なく、VOC濃度高濃度 冷却器を設置しVOCを回収することが通例 大気へのVOC排出量は小さい

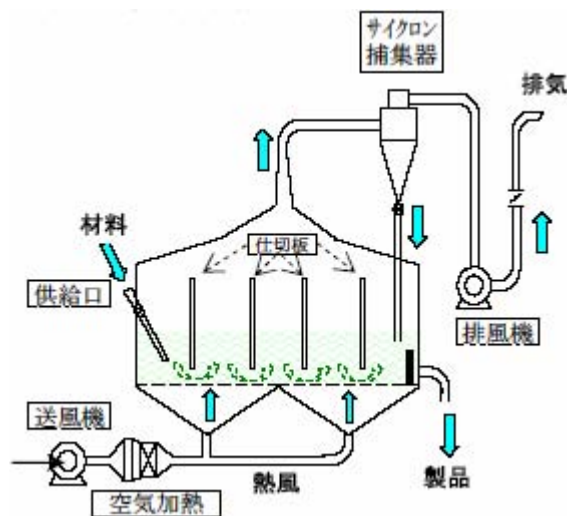
[参考]各施設の例(第2回小委員会・伊藤委員提出資料より抜粋)

(1)乾燥施設の分類

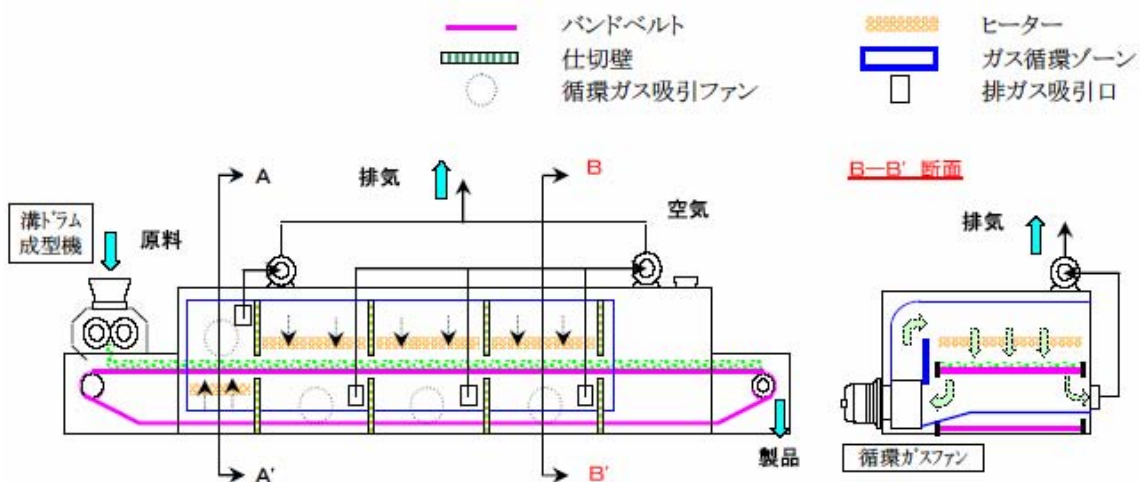


(2)熱風受熱方式の例

流動層乾燥機[塩ビポリマー]

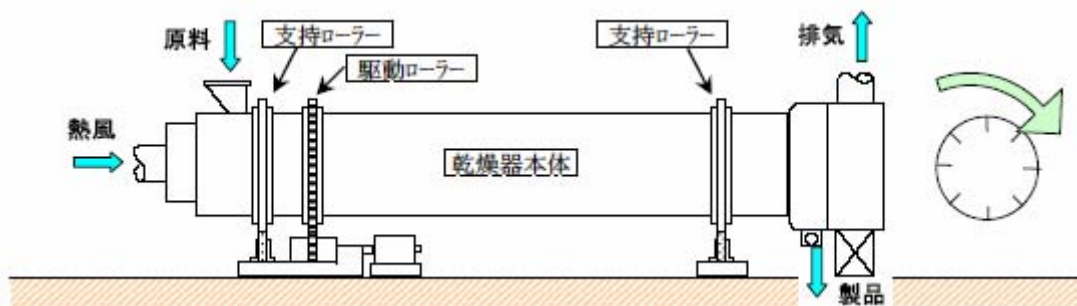


通気バンド乾燥機[合成ゴム]



※:「A-A'断面」は、「B-B'断面」に対し風循環が上昇風となる構造となっている。

通風回転乾燥機[一般製品]



(2) 伝導受熱方式

伝導伝熱型溝型攪拌乾燥機(パイルドライバ)[ポリエチレン]

